



～今号の内容～

- ・各研究部トピックス
- ・お知らせ

養豚・養鶏研究部再編整備事業の進捗

養豚・養鶏研究部は、令和3年8月1日に関市迫間に新築した事務研究棟への引っ越しを行いました。新事務研究棟は、畜産研究所養豚・養鶏研究部再編整備事業(令和元年～6年)で整備されたものであり、これまで、美濃加茂市と関市に分かれていた当研究部の事務管理機能及び実験・研究機能が一本化されました。

養豚、養鶏の各テーマ別に実験・研究が出来るよう合わせて7つの実験室の他、衛生室と作業室などが備わっています。また、豚熱、鳥インフルエンザなどの海外悪性伝染病等のウイルスや細菌を「内に持ち込まず」「外に持ち出さない」ために事務棟内にシャワールームを配置し、畜舎等の管理業務でのルール化、各々の施設や部屋の利用に動線を定めるなど、施設のハード面だけでなく利用にかかるソフト面にも配慮しています。

現在、引き続き令和6年度の全編完成に向けて再編整備が進められており、研究、農場防疫、再編業務と慌ただしい毎日ですが、職員一同、職務に励んでいます。



新築した事務研究棟

乳用牛の改良について

酪農研究部では県内乳用牛の改良を効率的に推進するため、平成20年度から家畜性判別胚供給事業に取り組み、これまでに約700個の雌胚を供給してきました。

本県の生乳生産量は年々減少傾向にあることから、1頭あたりの泌乳能力を向上させ生産効率を高めることは重要であり、岐阜県家畜改良増殖計画(令和3年3月)では、平均乳量を令和12年度までに600kg 高めることが目標として掲げられています。

このようなことから、酪農研究部では乳用牛の改良のさらなるスピードアップを図るため、令和2年3月に畜産振興課の酪農振興プロジェクト推進対策事業(高能力牛確保対策事業)によりアメリカからトップクラスの受精卵を導入し、今年9月に1号牛を得ることができました(写真)。次の世代を担う高能力牛として期待され、県内乳用牛の能力向上に役立てていきたいと考えています。



アメリカから導入した受精卵で生まれた子牛

新規基幹種雄牛の紹介

今年度は基幹種雄牛として「茂勝真」を選抜しました。「茂勝真」は、平成28年度の種雄牛造成方針(「白清85の3」の後継牛を父に持つ繁殖雌牛に交配出来る飛騨牛の特徴を兼ね備えた種雄牛の造成)を基に、母「しげかつ」に、体積に優れる「飛騨白真弓」を交配して造成しました。

本牛は、発育、体積および飛騨牛の特徴形質である肉色に優れており、現場後代検定においては、枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚および歩留基準値の成績が、岐阜県内歴代最高でした。今後は、現在活躍している「花清光」、「孝隆平」および「広茂清」など「白清85の3」の後継牛の交配相手として、利用が期待されます。



「茂勝真」本牛

生年月日：平成28年6月14日

登録点数：83.8点

生産者：中津川市福岡
可知 則雄

血統

飛騨白真弓	〔安晴王 (安福)
(黒原4519)	〔ひしげかつ171 (平茂勝)
〔しげかつ	〔勝忠平 (平茂勝)
(黒原1506764)	〔しげきよ (白清85の3)

お知らせ

現場後代検定枝肉研究会の開催予定

飛騨牛研究部

今年度の種雄牛候補牛の産肉能力検定に係る枝肉研究会の開催予定はつぎのとおりです。

「藤健翔(ふじけんしょう)」 令和3年11月15日(月)

「柘富士(とうふじ)」 令和4年 1月

「泰山北斗(たいざんぼくと)」 令和4年 3月

岐阜県畜産研究所

ホームページ<http://www.livestock.rd.pref.gifu.lg.jp>

□ 飛騨牛研究部

〒506-0101 高山市清見町牧ヶ洞 4393-1 Tel:0577-68-2226 Fax:0577-68-2227

□ 酪農研究部

〒509-7601 恵那市山岡町久保原 1975-615 Tel:0573-56-2769 Fax:0573-56-2974

□ 養豚・養鶏研究部

〒501-3924 関市迫間 2672-1 Tel:0575-22-3165 Fax:0575-22-3164